



# 「今後の原子力政策の方向性と行動指針」 パブリックコメントを提出

子どもたちに核のごみのない寿都を！町民の会 広報紙 2023年2月号（NO.47号）

## 震源地からの意見 札東に惑わされず、意志ある者の発信の機会を

令和4年12月23日に経済産業省が「今後の原子力政策の方向性と行動指針（案）に対する意見公募」（パブリックコメント）の募集を行い、1月22日に締め切られました。岸田内閣は原子力非常事態宣言下にあるこの日本で原子力発電所を積極的に活用し、新增設まで含めた原発回帰政策に舵を切りつつあります。今回の20ページに渡る行動方針案には「③最終処分の実現に向けた取り組み」が1ページだけ盛り込まれているものであり、その内容に調査事例地からの意見を寄せることは極めて重要なことです。ここでは町民の会がだした2通の意見とリコールの会が出した1件の意見の概要を紹介します。

### 【町民の会】

#### ①文献調査での交付金の廃止を

行動方針案では「最終処分事業に貢献する地域への敬意や感謝の念が社会的に広く共有されるような(中略)国を挙げての支援体制の構築」が言及されています。しかし、私たちが経験したことは「交付金目当ての応募」という社会からの冷たい評価でした。財政難・まちづくりと最終処分問題は別物であり、疲弊した自治体がお金欲しさに調査に応募すると言う動機を誘発するような仕組みは、かえって事態を悪化させた側面があったと思います。少なくとも寿都町の隣接自治体は交付金の配分を拒否した事実からもそう言えるのです。交付金の支給は文献調査を終えて本当に最終処分

場になる可能性が二つに一つとなる精密調査段階で支給すべきではないでしょうか？

### 【町民の会】

#### ②意見ある地域住民のシンポジウム登壇

行動方針案には「対話活動の状況などに関わる発信を目的としたシンポジウムの開催」が盛り込まれており、既に2月10日には片岡町長と高橋村長をゲストに招き、それぞれの対話の場のファシリテーターも登壇するシンポジウムが企画されています。自治体の首長だけが対話状況の発信に関わることは明らかに不公平です。情報発信を希望する者は積極的に登壇できる枠組みを作るべきです。

### 【リコールの会】

#### ③NUMOの実施主体としての適格性評価を

NUMOは地層処分の実施主体で、調査地では多くの采配をとります。しかし、中身は電力会社の人間であり、原子力発電の推進に都合の悪い情報は指摘しなければ話さず、調査継続に都合の悪い意見は過小評価してきました。したがって、公平で公正な対話のやり取りや、福島第一原発事故も起こした反省に立った采配をしているか、企業として人権配慮、コンプライアンス遵守などを含めた人事評価のような枠組みを作るべきです。





# 視察 六ヶ所村の原子燃料サイクルは日本のためになるのか？

役場と NUMO 事務局は六ヶ所村の原子燃料サイクル施設へ寿都町民を何十人も視察に案内しています。今回、その視察で知らされなかった問題点についてまとめます。

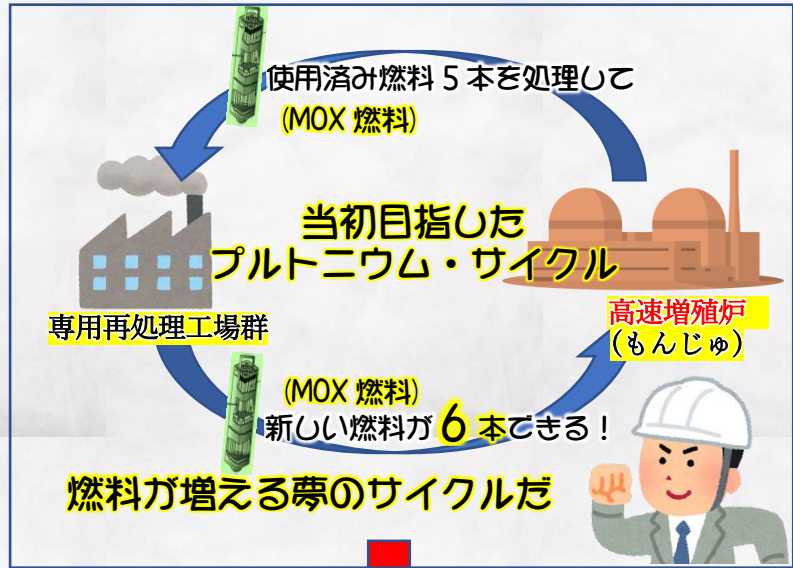
## ①資源的・経済的にいらないサイクル

原子燃料サイクルは、1970年代からウラン鉱石が枯渇する懸念が議論され、80年代の石油ショックによるエネルギー危機から、一度使ったウラン燃料からプルトニウムを抽出し、**高速増殖炉**と言う原子力発電所で使える核燃料に加工して使う事が大義名分でした。この原発で使った使用済み燃料を再処理すると、使った以上の燃料が再びつくれるという話でした。**製造業的に例えれば“原料の歩留まりが120%以上”**という夢の原子炉とされたのです。

しかし、2つの問題が発生しました。一つ目は**ウランが世界中で潤沢に見つかって到底枯渇しなくなった**のです。二つ目は**高速増殖炉でトラブルが相次ぎ、世界各国でもとん挫した**のです。

こうして原子燃料サイクルは、使い道が無くなったプルトニウムをウランと混ぜた MOX 燃料をつくり、一部の原発でしか使えず、コスト高となる“ウラン・サイクル”だけを回すことになりました。これは**使用済みウラン燃料 5本を処理して MOX燃料を1本しか作れません**。歩留まりは20%の**実りの少ない燃料であり、価格はウラン燃料の8倍以上する**ものです。<sup>\*1</sup>

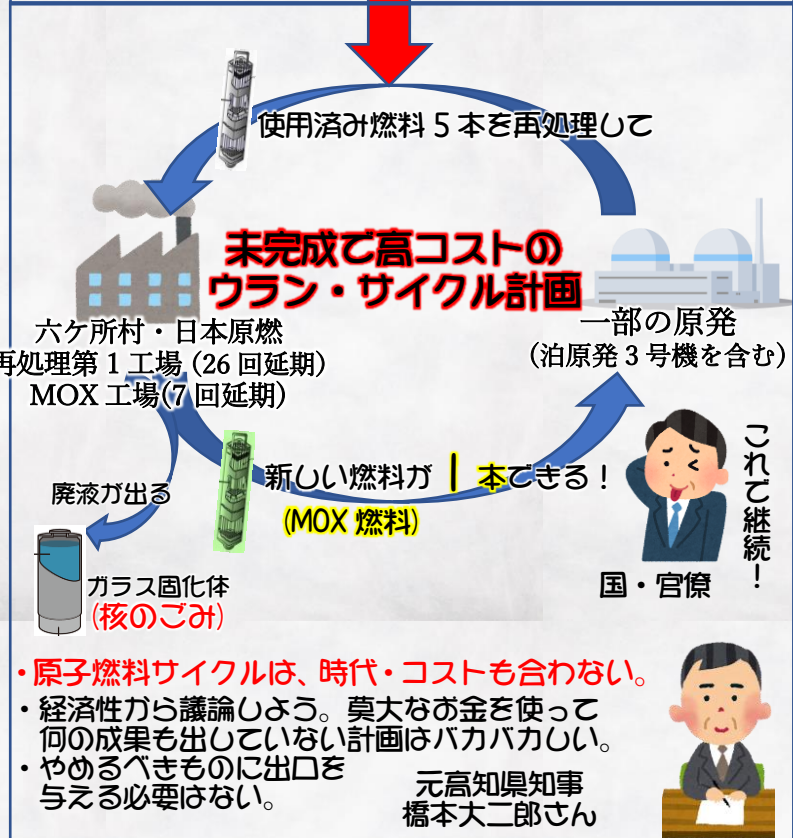
六ヶ所村に行ってもこの経緯は教えてくれませんでした。使用済みウラン燃料の再処理でつまづいて26回、26年も計画が延期されていて MOX 燃料を作る工場も7回完成が延期。とても弁明できないからです。元高知県知事の橋本大二郎さんは寿都で講演した際に「経済性から議論すればサイクルはもういらない」と言うお話をしています。



ウラン鉱石いっぱい見つけたよ

もんじゅ、失敗しました。

- ウラン(燃料)も当面なくならない
- もんじゅもトラブル続きで廃炉が決定
- プルトニウムも余ってしまった
- でも、国策で始めてしまった。どうしよう!





## ② サイクルを止めたら六ヶ所村は？

核のごみの最終処分場の建設が進むフィンランドでは「燃料の再処理はメリットがない」「最終処分場は確立した技術で行われなければならない」としました。これは寿都町での対話の場でスピーチした最終処分場を受け入れた町の町長の言葉。

つまり、最終処分先進地の考え方からすれば、六ヶ所村での再処理は無駄な作業であり、最終処分の議論のお荷物にすらなる仕組みです。かつて民主党が政権を握っていた際、原子燃料サイクルを止める方針を打ち出しました。これに対し青森県と六ヶ所村は「サイクルを止めるなら使用済み燃料を全て原発に返す」と言う脅しで対抗しサイクル継続に加担した経緯があります。しかし**原子燃料サイクルは巨額のお金を電気代から消費し、経済的にやる理由がなく経済産業省内でも異論\***が出たその本質は、その後も変わりませんでした。

再処理を行う**(株)日本原燃**には六ヶ所村村民が数千人も働く東北で一番大きな企業です。しかし、その実態は電気代から得た約**3兆円\***ものお金を浪費し、国民に還元できていない企業なのです。「自分たちはまた裏切られるかもしれない」と語った六ヶ所村の商業関係者がいたそうです<sup>\*5</sup>。つまり「原子燃料サイクルは六ヶ所村の雇用になっても日本のためにならないかもしれない」という懸念が隠されているのです。

サイクルを止めたら、使用済み燃料は排出した原発で乾式貯蔵し直せばいいだけです（暫定保管）。使用済み燃料を直接処分すると廃棄物の量が増えてしまいますが、最終処分場をもっと大きく設計し直せばいいだけです。多くの国民が「**電気代を浪費して成果の出ない再処理は止める**」と声を挙げる時代が来た時、六ヶ所村はどうなってしまうのでしょうか？**おかしい国策を過信することの恐ろしさこそ、今学ぶ必要があるのです。**

\*1 当初からプルトニウム・サイクルを本命としてウラン・サイクルの両方を回す計画でした。厳密にはウラン・サイクルでは使用済みウラン燃料6本処理して新しい1本のウラン燃料と1本のMOX燃料ができます。フランス等から返還された核燃料の貿易統計では、MOX燃料はウラン燃料より8~10倍高くなります。

\*2 <https://www.nishinippon.co.jp/item/n/625737/>



フィンランド  
エウラヨキ町町長

- ・再処理はメリットがない。
- ・地層処分は確立した技術で行わなければならない。

@第12回対話の場 使用済み核燃料を直接埋めるフィンランドの最終処分先進地との中継

2012年ごろ



民主党政権

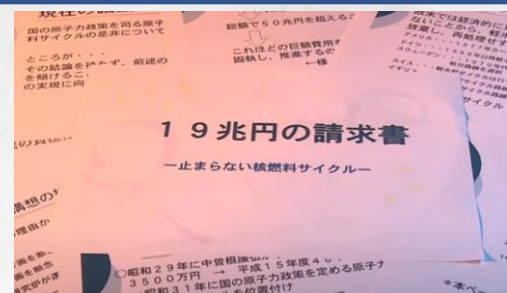
- ・使用済み核燃料が約1万9千トン再処理を待っている。
- ・原子燃料サイクルは再処理に失敗し続けて核のごみ（廃液を固めたガラス固化体）はまだ約2000トンしかない。<sup>\*4</sup>  
⇒再処理～最終処分技術の工程が未完成。
- ・「もう再処理・サイクルは止めようか」

再処理・サイクルを止めるなら、使用済み核燃料は原発に返す！（六ヶ所村村議会）

[https://www.nikkei.com/article/DGXNASFS0703F\\_XOOC12A9PP8000/](https://www.nikkei.com/article/DGXNASFS0703F_XOOC12A9PP8000/)



す、すみません  
返されたら原発が  
再稼働できなくな  
っちゃう！



当時の経済産業省の若手官僚らがまとめた提言

@HBCニュース「ネアンデルタール人は核の塵を見るか」

注：最終処分場建設までいれて19兆円

- ・誰のための原子燃料サイクル？
- ⇒(株)日本原燃が約3兆円もかけて、六ヶ所村周辺の雇用にしている。しかし、肝心のサイクルは回らない。
- ⇒国・国民の期待にできていない。
- ⇒ **原子燃料サイクルは、日本のためになるの??**

\*3 既に再処理工場使ったお金が約3兆円。再処理工場を稼働して閉鎖するまでに約14.5兆円、最終処分場建設等を入れて約19兆円。橋本大二郎さん公演より。 <https://www.youtube.com/watch?v=Qx75mhLxVWY>

\*4 東海村の再処理施設分316本。六ヶ所村での2880本を0.6トン/本で合計。六ヶ所村に貯蔵されている大半のガラス固化体はフランスなどに処理を代行してもらっているもの。2021年3月時点。

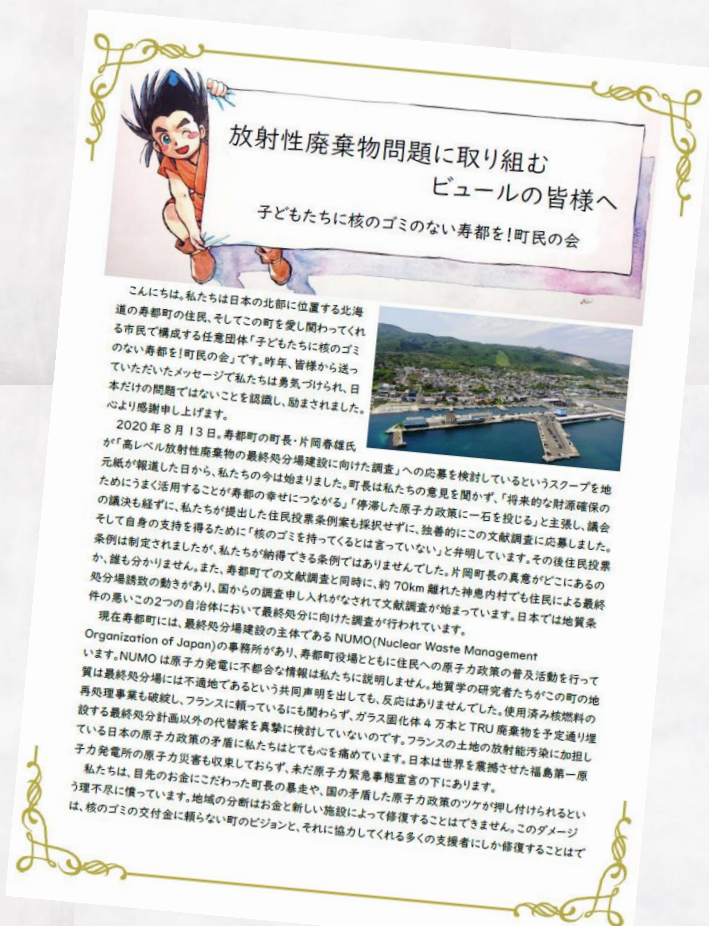
\*5 対話の場の委員より聞き取り



2022年の9月7日。町民の会宛てに1通のメッセージが届きました。フランスで精密調査相当の研究が進行するビュールと言う自治区で反対の声を挙げ続けている活動家からの応援メッセージでした。「自治体に提供される資金は膨れ上がり、ピカピカの箱物の建設や、地元の小規模経営者の賛同を札束で買うために使われています。住民を安心させるために公開討論会が開かれますが、そこで出された地元の意見は全く考慮されません」という現状に負けず、「核廃棄物の埋設を宿命と受け入れる必要はありません。人の力と意志があってこそ廃棄物が産まれるのですから、私たちには行動するという選択があります。それはまさに私たちの道徳的な義務なのです」と、行動することの重要性を教えてくれた手紙でした。

町民の会では、このビュールでの研究調査に反対する「CEDRA」等の反対団体に、

- ① 寿都では町長による独善的な真意の分からない行動によって町民が分断されたこと
- ② 日本では使用済み核燃料を再処理できずにフランスの大地を汚染しながらその処理を代行してもらっていることの遺憾の念



③ ありとあらゆる最終処分の方法を真摯に検討していない NUMO の姿勢を伝えました。

そして、ビュールが将来の寿都の姿かもしれないことを考え、もっとビュールのこと、フランスの原子力政策の実態について教えてもらうための連帯を深める返事を書きました。

国も調査段階も違う自治体同士ですが、原子力政策のツケに苦しめられている者同士であることを確認し、今後も情報交換を継続していきたいと思えます。

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6  
 TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com  
 HP : <http://kakugomi.no.coocan.jp/>  
 FB : <https://www.facebook.com/106569234530018/>  
 北海道銀行寿都支店(店番号 304)普通 0481374  
 ゆうちよ銀行 記号:19070 番号:44246811

